

令和6年産 大豆情報(Vol.2)

令和6年8月16日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



今後のポイント:開花期を基準に**紫斑病の適期防除**を行いましょう。病虫害・雑草防除、排水対策の再点検

6～8月上旬の気象経過と一か月予報

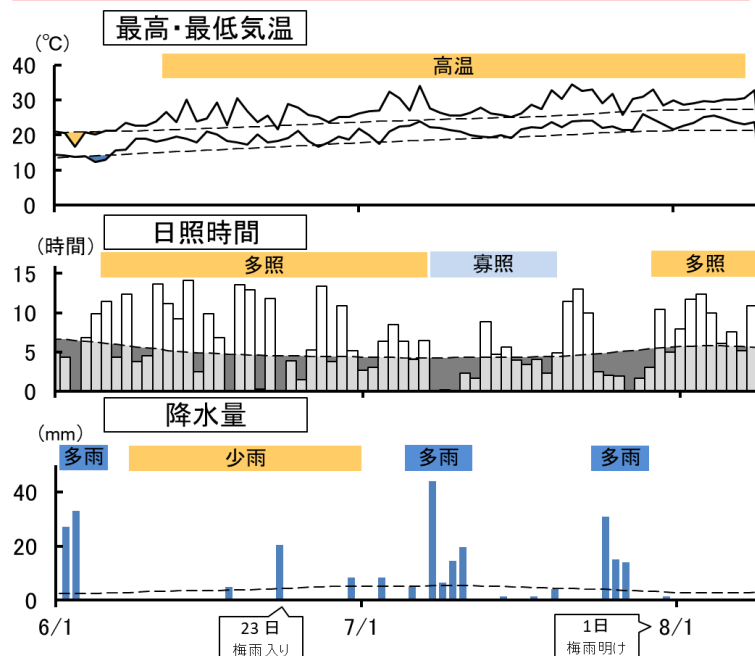


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温、中:日照時間、下:降水量
※点線は平年値

◆7月の平均気温は平年より2.9℃高く、日照時間は平年並み、降水量は7月上下旬の降雨が影響し、平年比115%と平年より高くなりました。

◆8月上旬の平均気温は平年より2.5℃高く、日照時間は平年比145%と多く、降水量は平年比18%と少なくなりました。

◆向こう1か月予報(8/17 ~ 9/16)

仙台管区気象台 8月15日発表

1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

【気温】	10	20	70
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	20	40	40

■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目	10	20	70
2週目	10	10	80
3～4週目	10	30	60

■低い ■平年並 ■高い

1週目:8/17～23、2週目:8/24～30、3～4週目:8/31～9/13

生育調査結果(8月9日)

表1 開花期と8月9日の生育調査結果

品種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			開花期(月日)			主茎長(c m)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	須江 (河南)	6/11	-9	-3	7/29	-6	-2	77.9	+28.1	+22.9	14.9	+2.6	+2.6	2.4	-0.1	+0.3
タチナガハ (普通)	蛇田 (石巻)	5/25	-32	-21	7/20	-17	-14	64.2	+20.3	+16.0	12.0	+1.4	-0.3	2.4	+1.2	+0.7
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/19	+16	+7	8/08	+8	+0	59.7	-26.6	-7.1	11.5	-3.2	-1.1	1.7	-0.9	-0.6
ミヤギシロメ (麦あと)	大曲 (矢本)	6/21	+9	+5	8/06	+2	-4	73.9	-3.4	+8.9	13.8	-0.1	+1.5	3.0	+0.8	+1.0

※1 平年差・比: H31～R5の5か年平均(平年値)との差

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す

※3 タンレイは、R6より調査開始のため、前年・平年値はR5までの水沼タンレイの値を使用

※4 大曲ミヤギシロメは、R6より調査開始のため、前年・平年値はR5年までの小船越・桃生ミヤギシロメの平均値を使用

◆タンレイは、播種日・開花期がともに平年より早まり、主茎長・主茎節数・分子数が平年を上回りました。

◆タチナガハは、播種日・開花期がともに平年より早まり、主茎長・分子数が平年を上回りました。

◆小船越ミヤギシロメは、播種日が平年より遅れたものの開花期は平年並み、主茎長・主茎節数・分子数は平年を下回りました。

◆大曲ミヤギシロメは、播種日が平年より遅れたものの開花期は平年より早く、主茎長・分子数が平年を上回りました。

今後の管理

タンレイは紫斑病対策を、ミヤギシロメ・タチナガハは害虫対策を優先しましょう！

◆病虫害対策

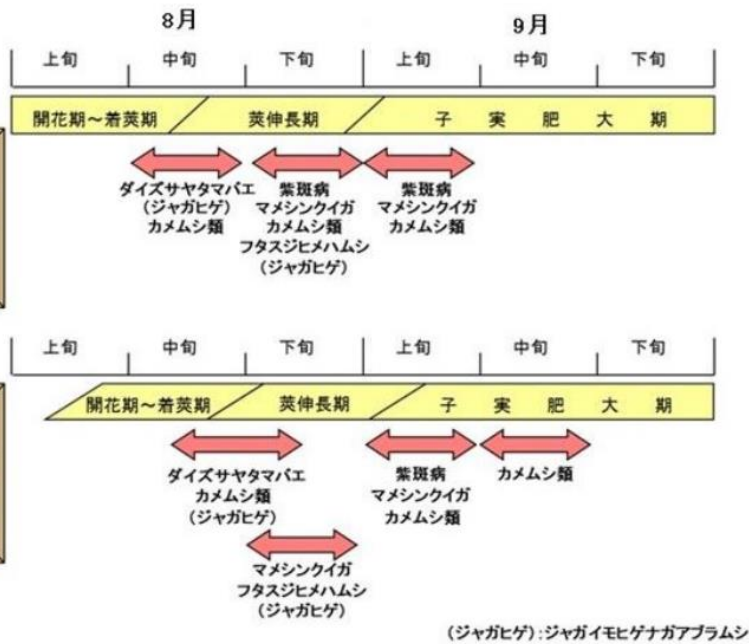


図2 大豆病虫害の同時防除体系図(標播)

<8月下旬までの発生予報>

- ・紫斑病 平年並
- ・アブラムシ類 やや少
(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)
- ・ウコンノメイガ 平年並み
- ・**吸実性カメムシ類 やや多**
- ・フタスジヒメハムシ 平年並
- ・マメシンクイガ 少



宮城県病害虫防除所
発生予報第7号-大豆-(8月5日発行)より



宮城県病害虫防除所
病害虫ライブラリー

◎紫斑病 … 開花期の20～40日後に防除

「**タンレイ**」は紫斑病抵抗性が「やや弱」なので、**2回の防除**を徹底し、**1回目は開花期後25日頃、2回目は開花期後35日頃**に防除を実施しましょう。

- ※ 開花期は「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」
- ※ 耐性菌発生リスクがあるので、同一剤の連用は避けましょう。
- ※ 県内でアミスター20フロアブル(FRACコード11)の感受性低下菌の発生が確認されました。ブランドム乳剤25やトライフロアブル等への切り替えを検討しましょう。

<感染しやすい気象条件>

◎開花期後10～40日の降水量が多い

- 開花期後約10日以前の英には菌が感染しにくい
- 開花期後約40日以降の英に感染しても、成熟期までに子実には菌系が届かない

◎成熟期前後の降水量が多く、気温が高め

- 雨で子実水分が上がると、菌系が侵入しやすくなる
- また、刈取が遅れるため発病期間が長くなる
- 気温が高いと子実に到達できる菌系が増加、発病適温は20℃前後

○菌糸発育及び
胞子発芽の適温
20～30℃
○病斑形成の適温
20℃前後

○降雨は、菌糸の
発育を促進する
とともに、胞子の
拡散を助長



表2 開花期別防除時期の例(タンレイ)

品種	開花期	7月	8月							9月																		
		…中旬…	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
タンレイ	8/01																											
	8/05																											
	8/10																											
	8/15																											

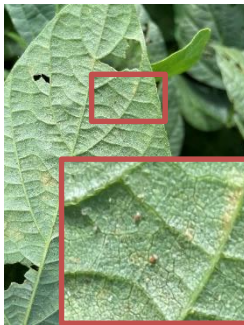
◆害虫対策

◎吸実性カメムシ類

- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期と子実肥大中期の2回薬剤を散布します。越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなる恐れがあるので注意してください。

◎ハダニ類

- ・**発生**: 高温乾燥の気象条件で増加しやすいため、これまで管内では沿岸部での発生が確認されていましたが、**昨年は内陸部(河南・河北・桃生等)でも確認**されています。
- ・**症状**: ハダニに吸汁された部分は白く「カスリ状」となります。さらに被害が進展し葉全体に進むと黄色を経て褐色に変化し(下写真)、最終的には落葉し、枯死します。
- ・**子実への影響**: 枯死しない場合でも早期落葉に由来する転流不足により、**小粒化・しわ粒の増加**などが想定されます。



ハダニ(R4.8)



白くカスリ状になった葉(R4.8)



葉が黄変した葉(R4.8)

◆雑草対策 **収穫時に残った雑草は汚粒の原因になり品質低下につながります ほ場に種子を残す前に対策をしましょう！**

- ◎ タデ類、シロザ、アメリカセンダングサ、イヌホオズキ等の雑草が収穫時に残っていると汚粒の原因となるため、非選択性除草剤の畝間散布(雑草草丈約15cmまで)や手取りで除草を行いましょう。
- ◎ **9月以降、多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリ、アサガオ類等の難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょう。**

アレチウリの防除対策は 普及に移す技術第90号に詳しく掲載されています。また、アレチウリは‘外来生物法’によって「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動させることが禁止されています。防除を行う際にも、生きた植物体(発芽可能な種子も含みます)を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意してください。



宮城県「普及に移す技術」第90号

「大豆作における難防除雑草アレチウリの対策」

◆湿害対策

- ◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

◆乾燥対策

- ◎大豆は開花期以降、大量の水を必要とします。土壌の過乾燥は、落花・落きょうによる減収の原因となるので、晴天が7日以上続いて土壌が白く乾燥し、日中の葉の反転が半分以上となるような場合には、畝間かん水や暗きよの水閘(こう)を閉じるなどの対策が必要です。